



「障がい者の家族ってどうですか？」

—また、選ばれちゃった？—

No. 3



独立新生葛飾教会牧師

峯野 慈朗

「また、選ばれちゃった？」

先

先天性白内障（生まれつきの白内障）か：先生の話を聞きながら、小さなマモルの顔をのぞき込む。なるほどよく見ると、マモルの左目には白く濁った部分があるのがわかる。子どもを持つのも初めて、ダウン症も初めて、先天性白内障も初めて。わたしたち夫婦に神さまからのプレゼントが次々に届いた。

「神様は乗り越えられない試練は与えない」と、白血病になった水泳の池江璃花子さんが、ツイッターで言われていたが、聖書には

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

（コリントの信徒への手紙第一10章13節）

と書かれている。さらに、

「おおよそ鍛錬というものは、当座は喜ばしいものではなく、悲しいものと思われるのですが、後になるとそれで鍛え上げられた人々に、義という平和に満ちた美を結ばせるのです。」

（ヘブライ人への手紙12章11節）

とある。問題や課題は、それをくださった神さまを信じて進んで行くと、不思議な出会いや奇跡を体験することができると思う。

と

て、産院の先生から紹介され、浜松医大の眼科を受診した。大きな病院だ。眼科の待合室には大人ばかりで赤ちゃんはいない。ちっちゃなマモルを抱き、呼ばれるのを待ちながら、妻と聖書を開いて日課のページを読む。不安な気持ちも落ち着く。いつでも神さまを信頼することだ。

高齢者の白内障手術と言えば、ご存知の方も多いただろう。眼球内の白く濁った部分を水晶体ごと取り除き、代わりに人工の眼内レンズを入れる。今は技術も進み、多くの場合は入院もせず、手術時間も10分ほどでできてしまう。しか



「最近のマモル（おじいちゃん）」